

タイトル	3つの言語と3人の私
ポーランド語のタイトル	Trzy języki – moje trzy wcielenia
テーマ	c
名前	アメリア・リプコ
ポーランド語の名前	Amelia Lipko
学校名	UAM 日本学科
学年	2年生

ある時、昔のフランス国王カール大帝の言葉を読みました。「別の言葉を習うことは、もうひとつの魂を得ることになる」。それは自分でもよく感じることもあると、その時に思いました。ポーランド語、英語、日本語を話す私は、それぞれが違う私だと思います。

時々、ひとつの言語で伝えられない気持ちを、他の言語で伝えることができます。皆さんにも、そういうときがあるんじゃないでしょうか。それは多分、それぞれの言語には表現方法に特徴があるからだと思います。

例えば、受け身の多い英語で話す私は、一番フォーマルだと思います。今働いている会社の社長にもそう言われたことがあります。

一方、あいづちが多い日本語で話す私は、一番親しみやすいと思います。そして、何故だか分かりませんが、日本語で話すのは私にとって一番楽しいことです。もちろん、まだまだたくさん勉強をしなければなりませんが、なんとなく日本語の言葉の響きは自然に感じます。子音ばかりのポーランド語と違って、母音が多い日本語は話しやすく、歌を歌っているような感じがしませんか。

そして、ポーランド語で話す私についての分析は難しいです。子供の時はずいぶん人見知りをする性格でした。今でもそんな風になる時がありますが、それは普段、ポーランド語で話す時に起こることです。また、母語で話すともっと言葉の重みを感じます。例えば、「愛してる」と言う時は、母語じゃないとその感情が100%入らないかもしれないと思います。

では、外国語で話す時、母語で話す時ほど感情的ではないのは何故でしょうか。自分の気持ちから少し離れて、冷静に物事を見ることが出来るからだだと思います。過去の思い出や先入観に影響されないで、本当に自分自身の意見を言えます。それはやっぱり、外国語で話す時には、普段より知らず知らず言葉に集中しなければならないからではないでしょうか。

人々が外国語を学ぶのは、他の文化についてもっと知りたいからです。しかし、それによって外の世界だけではなく、自分自身のことももっとよく知るようになると思います。話す言語によって本来の性格がもっと社交的になったり、冷静になったり、自信を持つようになったりすることがあるなら、自分がより優れた人になれる証拠です。ですから、皆さん、外国語を話してさらに自分を向上させようではありませんか。

ポーランド語の要約

Język, w którym mówimy, ma wpływ na to, jacy jesteśmy. Zdarza się, że lepiej odnajdujemy się w niektórych sytuacjach posługując się językiem innym niż ojczysty. Mówienie w języku obcym może ułatwić nam zachowanie się w określony sposób. W mojej wypowiedzi przedstawiam jak konkretne języki w moim odczuciu wpływają na osobowość i jak można to wykorzystać.